



チェス盤の上に置かれた、高さ約120センチのチェスの駒。ジョヴァンニ役の学生は、チェスについての予習を求められた

オペラ・プロジェクト 「ドン・ジョヴァンニ」

モーツァルトのオペラの舞台を、現代日本に設定してみたら！？
斬新な演出のもと、昨秋に上演されたオペラ・プロジェクト
「ドン・ジョヴァンニ」 出演学生がその舞台裏を語る。



芸大定期・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」は2001年10月8日（月）昼の部・夜の部、10月9日（火）夜の部の計3回上演された



3回公演とも異なった演出、音楽学部と美術学部の共同制作など、今までは画期的な試みが実現した

現代のおもちゃ箱「ドン・ジョヴァンニ」 泉貴子

二一年（平成十三年）十月八、九日、芸大定期・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」が奏楽堂で上演されました。

「今回のオペラは現代版。服装はユニクロのような感じで、ふだん着でいきたいと思えます。ほんらいのドン・ジョヴァンニのオペラに出てくるスペイン風なワインの飲み方など、そういうことは知らなくて結構です。裏のシーンの食べ物はハンバーガーなどファスト・フード的なものを考えています。ワインは缶ビールにします。それから舞台の床はチェス盤にして、ところどころに「ニ」センチくらいのチェスがあると、思いますのでそれを歌うときに、使ってください。とくにドン・ジョヴァンニ役の方はチェスについて勉強しておいてください。」

これが最初に演出の賣相寺先生からの説明でした。現代版というのは早くから伺っていましたが、まさか服装もふだん着同然になるとは!? だれもが驚きの色を隠せませんでした。その他にも今年は何年とは異なることが多い異例づくしでした。たとえば日程の変更、そして初めての三回公演、音楽学部と美術学部の共同制作。当初はとまどいがちな練習の日々が続きました。

舞台上立つ側の私たちにとって、とても新鮮に感じられたのは三回公演それぞれ異なった演出だったということではないでしょうか。個性を重視しようという考えのもと、衣装も各組で話しあって決めることになりましたし、舞台の大道具だけがかわらないものの、キャストが持つて登場する小道具も組によって全く違いますし、当然のごとく役柄の解釈も三通り生まれました。そういった面ではかのオペラでは味わえない経験だったと思います。実際私自身、自分とは違う組のゲネプロを観たときに、まるで別

の演目のオペラを観ている感を受けました。

観にいらしていただいた方々からは、「おもしかった。とにかく楽しい舞台だった」という声が多かったようです。オペラが始まって序曲中に浮かび上がってくるチェス。そしてそこに現れるのはキックボードで走り回る少年、地面に座り込んでたむろする少年、携帯電話でメールをしながら歩いてくる少女、その中を登場してくるドン・ジョヴァンニとノートパソコンを手にしたレボレット。そしてそれに引き続き西部劇を思わせる騎士長とドン・ジョヴァンニの決闘シーン。その他銃を持って復讐を誓い合うドン・アンナとドン・オッターヴィオ。スリッパを曳いて登場するドンナ・エルヴィーラに、風船やビデオカメラを持って出てくるツェルリーナとマゼット。まるで現代を象徴するおもちゃ箱をひっくり返したかのよう、さまざまな物が飛び出しました。次は何が出てくるのだろうか、そんな楽しみ方も聴衆側にはあったようです。

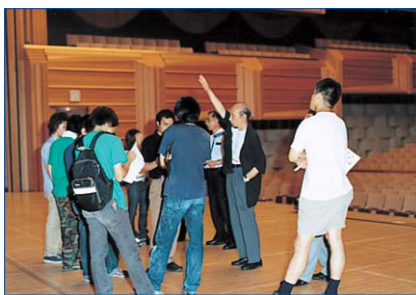
歌って演技して舞台上立つということは、さまざまなことが要求され必要とされます。その上、自分たちの身につける衣装、持つ小道具など、演じようとするキャラクターに合わせた物

を自らで選択して決めていくということは、正直いって大変なことでした。しかし自分たちで納得いくまで話し合っていて、創り上げていくことに達成感というものが今までのオペラ公演よりも大きく感じられた気がします。

美術の先生方をはじめ、院生の方々に制作していただいた騎士長像、仮面、チェスの駒などが舞台上にあり、またオーケストラピットからは指揮者の若杉先生とオーケストラの先生方が舞台裏からも多数の先生方やスタッフの方々が私たちを支えてくださいました。

ひとつの舞台上で音楽と美術が融合し、一体化したのです。これ芸大ならではのオペラ、総合芸術ではないでしょうか。そうそう忘れてはならない字幕だって院生の方のお手製なんです。大学内で共同制作が可能な、ある意味で「自家製オペラ!?」。ぜひこれからも伝統として残ってほしいものです。

さて来年は「ウインザーの陽気な女房たち」と聞いております。いったいどんな舞台が繰り上げられるのでしょうか。乞うご期待です。（いずみ・たかこ/大学院音楽研究科修士課程二年オペラ専攻）



奏楽堂を使った練習風景。中央が、演出の賣相寺教官



10月9日の部の練習風景（写真右）と主な出演者。左写真左端は指揮の若杉弘教官

芸大定期・オペラ 第47回 「ドン・ジョヴァンニ」 W.A.モーツァルト作曲 ロレンツォ・ダ・ポンテ台本

指揮：若杉弘 演出：賣相寺昭雄

美術：唐見博
照明：牛場賢二
ムーブメント：柴田恵理子
舞台監督・演出助手：賀川祐之
演出助手：中村由利
舞台監督助手：小野寺東子 葛西伸一
山崎朝子 本杉美緒
言語・表現アドバイザー：
U. ガルディーニ
G. N. ビリウッチ

字幕：宮本益光
指揮補：田中良和 小田野宏之
副指揮：樋本英一
副指揮・合唱指揮：千葉芳裕
合唱指揮：桑原英明
チェンバロ：大藤玲子
コーチ：大藤玲子 勝部子 田中梢
鳥井俊之
出演：東京芸術大学大学院音楽研究科
声楽専攻学生
東京芸術大学音楽学部オペラ
研究部
合唱：東京芸術大学音楽学部声楽科
3年生（オペラ専攻）
オーケストラ：東京芸術大学音楽学部
管弦楽研究部